

科目名		授業形態	担当教員名	
器質性構音障害Ⅱ(舌癌)		講義	熊倉 勇美	
時間数(単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 (1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
器質性構音障害の症状把握に必要な基礎知識である口腔底、軟口蓋、下顎などの口腔の解剖を整理し、確認する。口腔癌の一般症状、治療方法について学ぶ。 次に、口腔癌術後のスピーチリハビリテーションをチームの中でいかに進めていくのか、評価・訓練について具体的な内容を学習する。				
授業の到達目標				
器質性構音障害(舌癌)の症状把握にかかわる口腔の解剖を説明できる。 器質性構音障害(舌癌)の治療理論について学習する。				
授業計画				
回	内容			
1	後天性器質性構音障害とは			
2	頭頸部がん、口腔がん、舌がんという分類			
3	口腔の解剖学：外舌筋と内舌筋			
4	がん：口腔・中咽頭がんの特性と治療(放射線治療、化学療法、外科治療)			
5	外科治療後の構音障害：患者の抱える問題			
6	言語聴覚士の果たす役割：評価・訓練			
7	補綴治療・AAC			
8	訓練効果			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
口腔・中咽頭がんのリハビリテーションー構音障害、摂食・嚥下障害ー	溝尻源太郎・熊倉勇美編		医歯薬出版	
自由記載	適宜、レジメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
急性期、回復期リハはもちろん、在宅においても「がん」患者は増えている。きちんと対応できるよう準備が必要である				